

トリフルミゾール水和剤 トリフミン水和剤	取扱メーカー： 石原、協友アグリ、日本曹達 原体メーカー： 日本曹達
成分： トリフルミゾール〔エルゴステロール生合成阻害剤〕…30.0%	性状： 類白色水和性粉末45μm以下 毒性： 普通物 消防法： —

【品目特性】

- 病原菌（かび）の細胞膜形成に必要なエルゴステロールの生合成を阻害する。
- 胞子の発芽は阻害しないが、菌糸の伸長を強く阻害する。
- 広範囲の病害に予防効果と強い治療効果があり、病原菌が侵入した後の散布でも病斑・胞子の形成を阻害する。
- 茎葉に散布された薬剤は植物組織内によく浸達するので、効果の持続性、耐雨性がある。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】

〈りんご〉

- 黒星病に対して開花直前から収穫30日前までに散布する。特に、開花前後の第一次感染期の散布が有効である。

- 赤星病・うどんこ病は黒星病と同時防除ができる。

〈なし〉

- 黒星病に対してりんぼう脱落期から収穫前日まで散布する。特にりんぼう脱落期から開花期にかけての果実への第一次感染時期の散布が有効である。

- 赤星病と黒星病との同時防除ができる。治療効果があるので降雨後の散布でも有効である。

〈もも・灰星病〉

- 開花期の花腐れ防止及び収穫前日までの果実腐敗防止に散布する。

〈茶炭疽病・もち病〉

- 両病とも新葉展葉期に感染するので、茶芽の1葉期、2葉期に散布する。

〈野菜類うどんこ病〉

- 発生初期から10～14日間隔で散布する。治療効果があるので初発直後の散布でもまん延を

防ぐことができる。

〈稲種子消毒〉

- ばか苗病の他剤耐性菌にも有効である。
- 浸漬処理、粉衣処理、吹き付け処理のいずれの方法でも種子消毒できる。
- 浸種中に種もみ内部へ取り込まれることによっても効果を発揮するので薬剤は浸種前に処理する。

【薬効・薬害等の注意】

- 水稻の種子消毒に使用する場合には、下記の点に注意する。

- 種子消毒は浸種前に行う。
- 薬液の温度はなるべく10℃以下をさける。
- 浸漬処理の場合、種もみと処理薬液との容量比は1：1以上とする。
- 長時間浸漬の場合、薬液浸漬処理中1～2回攪拌する。
- 粉衣処理では、付着をよくするため湿粉衣とする。
- 処理した種もみは、風乾後水洗せずに浸種する。
- 消毒後の浸種は水槽で行い、浸種中の水の交換は、原則として初めの2日間行わない。その後換水する場合は、静かに行う。
- 吹き付け処理の場合は、専用の種子消毒機を使用し、種もみに均一に付着させて乾燥させる。
- 粉衣処理・高濃度浸漬（30倍）処理及び吹き付け処理をした種子をは種する場合は、浸漬終了後、浸種液中で過度の付着薬剤をゆすぎ落としてからは種する。
- 軽度な初期生育遅延が認められる場合があるが、その後回復するので通常の管理を維持する。
- 箱育苗の場合、は種前に床土に十分灌水し、覆土後の灌水は原則として行わない。灌水量が少ないと一般に根上りの原因となるので、灌水量は少なくとも種当り1ℓ以上とする。

- 丸型樹脂ポット・型枠育苗方式で育苗する場合には、機械メーカーなど関係機関の指導を受ける。
- 過度な高温での出芽は行わない。
- りんごに使用する場合は、黒星病、赤星病及びうどんこ病の防除を主体とし、斑点落葉病には落花後20日頃までの初期防除剤として使用する。
- いちじくの株枯病に対して灌注処理する場合は1カ月間隔で使用する。生育抑制を生じる場合があるので、根域に合わせて処理量や回数を調整する。
- うり類の幼苗期には濃緑化症状及び生育抑制が生じることがあるので、使用しない。

- チューリップの球根粉衣に使用する場合は、適当な容器内で球根に本剤を均一に粉衣してから植え付ける。
- 適用作物（なし、うり類、スイートピー、いちじく）の葉害などの注意は「葉害注意事項解説」を参照。
- 共通注意事項8. 適用作物群に関する注意事項を参照。

【安全対策上の注意】

- 魚類に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意。



【適用と使用法】

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トリフルミソールを含む 農薬の総使用回数
りんご	斑点落葉病 黒星病 うどんこ病 赤星病	2000～ 3000倍	200～ 700 ℓ	前日まで	3回以内	散布	3回以内
なし	黒星病 赤星病						
かき	うどんこ病	2000倍					
	黒点病	2000～ 3000倍					
ぶどう	うどんこ病	2000～ 3000倍					
	黒とう病	2000倍					
もも	灰星病 黒星病	1000～ 1500倍					
	うどんこ病	1500～ 2000倍					
すもも		1000倍					
おうとう	灰星病	1000～ 1500倍					
うめ	黒星病	2000倍					
いちじく	株枯病	500倍	1～10 ℓ / 株	前日まで	4回以内	灌注	7回以内 (散布は3 回以内、灌 注は4回以 内)
	さび病 そうか病	2000倍	200～ 700 ℓ	14日前 まで	3回以内	散布	3回以内
マルメロ	前日まで						
かりん				3日前 まで			
あけび (果実)	うどんこ病			7日前 まで			
マンゴー							

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トリフルゾールを含む 農薬の総使用回数				
稲	ごま葉枯病 いもち病 ばか苗病	30 倍	—	浸種前	1 回	10 分間 種子浸漬	1 回				
		300 倍				24～48 時間種子 浸漬					
		乾燥粃 重量の 0.5%	乾燥種粃 1kg 当り 30㎖			種子粉衣 (湿粉衣)					
		7.5～ 15 倍				種子吹き 付け処理 (種子消毒 機使用)					
麦 類	斑葉病 裸黒穂病 なまぐさ黒穂病 網斑病	種子重量 の0.5%	—	は種前	3 回以内 (種子粉衣 は1回以内)	種子粉衣					
	うどんこ病 赤かび病	1000～ 2000 倍	60～ 150 ℓ	14 日前 まで		散布					
とうもろこし(子実)	すす紋病	2000～ 4000 倍	100～ 300 ℓ	30 日前 まで	3 回以内	5 回以内	3 回以内				
未成熟とうもろこし				7 日前 まで							
い ち ご	じゃのめ病	3000 倍		前日まで	5 回以内	散布	5 回以内				
メ ロ ン	うどんこ病	3000～ 5000 倍									
	陥没病	3000 倍									
す い か さやえんどう 実えんどう ピーマン	うどんこ病	3000～ 5000 倍						は種前	1 回	種子粉衣 (湿粉衣)	5 回以内 (種子粉衣 は1回以内)
き ゆ う り	うどんこ病 黒星病										
	うどんこ病										
か ぼ ち や	フザリウム立枯病	種子重量 の0.3%	—	は種前	3 回以内	3 回以内					
に が う り	うどんこ病	3000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	5 回以内	散布	5 回以内				
う り 類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯病 炭疽病	3000～ 5000 倍									
	ト マ ト ミニトマト							葉かび病 すすかび病	3000 倍		
な す	うどんこ病	3000～ 5000 倍						収穫開始 10 日前 まで	3 回以内	3 回以内	
	すすかび病	3000 倍									
し そ	さび病	5000 倍									

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トリフルゾールを含む 農薬の総使用回数		
ね ぎ	萎凋病	50 倍	－	定植直前	1 回	5～30 分間苗根 部浸漬	1 回		
		200 倍	セル成型育苗 トレイ1箱ま たはペーパー ポット1冊(30 ×60cm, 使 用土壌約5ℓ) 当り1ℓ	定植前		苗床灌注			
た ま ね ぎ	乾腐病	50 倍	－	定植直前		5分間苗 根部浸漬		苗床灌注	
		50～ 100 倍	セル成型育苗 トレイ1箱ま たはペーパー ポット1冊(30 ×60cm, 使 用土壌約5ℓ) 当り0.5ℓ	定植前					
		100 倍	セル成型育苗 トレイ1箱ま たはペーパー ポット1冊(30 ×60cm, 使 用土壌約5ℓ) 当り0.5～1ℓ						
オ ク ラ	黒斑病 うどんこ病 葉すす病	5000倍	100～ 300 ℓ	前日まで	3回以内	散布	3回以内		
セ ル リ ー	斑点病	2000倍			2回以内		2回以内		
こんにゃく	乾腐病	50 倍	種いも1m ² 当り150ml	植付前	1 回	種いもの 芽基部に 散布	1 回		
らっきょう			－			5～30 分間種球 浸漬			
			黒球病			5分間種 球浸漬			
アスパラガス	立枯病	1000倍	3 ℓ / m ²	7 日前 まで				灌注	
食 用 ゆ り	鱗茎さび症	50 倍	－	植付前				種球瞬間 浸漬	
とうがらし類	うどんこ病	4000～ 5000 倍	100～ 300 ℓ	前日まで	5回以内	散布	5回以内		
ご ぼ う		1000 倍		3回以内	3回以内		3回以内		
に ん じ ん		3000 倍						14 日前 まで	
ふ き								45 日前 まで	
ふき(ふきのとう)	うどんこ病 さび病								

作物名	適用病害名	希釈 倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期 (収穫前)	本剤の 使用回数	使用方法	トリフルミソールを含む 農薬の総使用回数
パ セ リ	うどんこ病	8000倍	100～ 300 ℓ	30日前 まで	1回	散布	1回
し ょ う が	白星病	1000倍		前日まで	5回以内		5回以内
葉しょうが				7日前 まで	3回以内		3回以内
に ら	さび病	2000倍		14日前 まで			
にんにく	葉枯病			前日まで			
茶	炭疽病	1500～ 2000倍	200～ 400 ℓ	摘採14 日前まで			
	もち病	1000～ 1500倍					
チューリップ	球根腐敗病	球根重量 の0.2%	—	植付前	1回	球根粉衣	1回
ば ら	うどんこ病	3000～ 5000倍	100～ 300 ℓ	発病初期	5回以内	散布	5回以内
き く	白さび病	1000倍					
花 き 類・ 観 葉 植 物 (ばら, きく を除く)	うどんこ病	3000倍					
樹 木 類							
た ば こ		5000倍		25～ 180 ℓ	10日前 まで		2回以内